

Contents

- 学生FDサミットを開催しました。
- 「関東圏FD連絡会」包括協定を結びました。

～センター長メッセージ～

「平成 25 年度 FD 活動報告 ～学生の自律的な学習を作り出すために～」
..... p. 1

～平成 25 年度春学期授業評価アンケート結果報告～

平成 25 年度春学期授業評価アンケートの結果を振り返って..... p. 2

～全学 FD 研修会報告～

平成 25 年度教育改善シンポジウム..... p. 4

平成 25 年度学部 FD 活動状況報告会..... p. 5

平成 25 年度一般教員 FD 研修会..... p. 6

～FD 活動紹介～

各学部・研究科におけるFD 活動
＜経済学部＞＜社会学部＞＜国際地域学部＞＜ライフデザイン学部＞..... p. 8

「2013 年度学生 FD スタッフ活動報告」..... p. 10

図書館の取組
「東洋大学白山図書館 presents “English Tips” at ラーニングフォレスト」
..... p. 10

～FD 推進支援室からのお知らせ～

「学生 FD サミット 2014 春」開催報告..... p. 11

他大学との交流「関東圏FD連絡会」および包括協定の締結について..... p. 11

全国私立大学 FD 連携フォーラム

(JPFF) 会員校ミーティング参加報告..... p. 11

本学における学修支援室の整備について..... p. 11

平成 25 年度東洋大学 FD 推進センター活動報告..... p. 12

「平成 25 年度 FD 活動報告 ～学生の自律的な学習を作り出すために～」

FD 推進センター長 神田 雄一



本学における FD 活動も第 IV 期に入り、その活動も次第に定着しつつあります。一方、全学的な FD 活動に加えて、各学部あるいは学科レベルでの FD 活動が活発化してきたことは大変好ましい状況であり、FD 活動に対する教職員の意識の高さを示すものでしょう。教学上の喫緊

の課題は、教育の質保証と向上への対応と言えます。そこで FD 活動の基本を考えてみますと、それは授業方法や内容の改善、さらに教員のインセンティブを高めて教育・研究の質の向上を図ることでしょう。今年度行われた一般教員 FD 研修会では金子元久氏による講演を行いました。そこで氏は教育改革の展望において学生の自律的な学習を作り出すことが重要であり、それには一般的な正解はなく教員と学生との相互作用が重要で、これを授業でいかにして可能にするかがポイントになることを強調されました。このことは従来、FD 活動が教員を主体として行われていたものから、教育を受ける学生も包括した協働的な展開をする活動への転換を意味するのではないのでしょうか。

さて、本年度における具体的な活動は 5 部会を中心に、充実した活動を実施していただきました。研修部会では、新任教員 FD 研修会をはじめとして系統的な研修プログラムの企画と実施をしていただきましたが、相変わらず参加者の増加への対応に苦慮しております。大学院部会では、大学院独自の FD 活

動の検討をしていただいておりますが、教員養成プログラム (PFFP) に関する議論をまとめていただきました。教育改善対策部会では、授業評価アンケートの活用と ToyoNet-Ace の実践例に関する教育改善シンポジウムを開催していただきました。授業評価手法検討部会では、全学共通授業評価アンケートのフィードバックシステムの確立に向けた検討を続けていただいております。編集部会では FD ニュース、年次報告書の定期的な発刊に向けて尽力いただいております。

また、他大学・組織との交流を通して情報交換の促進を図っておりますが、4 大学による関東圏 FD 連絡会の参加に加えて、今年度より、全国私立大学 FD 連携フォーラムへの加盟が認められましたので、他大学の先進的な取り組みを学んでいきたいと考えております。

最後に学生の FD 活動について触れますと、本学における学生 FD 活動は 2010 年から始まり、“しゃべり場”の実施や本学を代表しての全国学生 FD サミットへの参加などを通して地道な活動を展開しております。本年度には「第 1 回 授業の声コンクール」の実施や、本年 3 月には関東圏で初めて本学において全国学生 FD サミットを開催するまでになっております。このような活動を FD 推進センターとしては支援したいと考えております。FD 推進委員会でも議論させていただいておりますが、幸い各委員から肯定的なご意見をいただいておりますので、新たな体制づくりを考えております。

本学における教育の質保証を実現するための FD 活動を、今後ともさらに充実すべく展開してまいります。教職員各位の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成 25 年度 春学期授業評価アンケートの結果を振り返って

授業評価手法検討部会長 長谷川 勝久（文学部 教授）

実施時期：平成 25 年 7 月 8 日（月）～ 7 月 27 日（土）

実施内容：(1)対象者

学部 に所属する専任教員、非常勤講師全員

(2)対象科目

教員一人につき、専任教員は 2 科目以上、非常勤講師は 1 科目以上。
(受講者数が 9 名以下の科目、卒論指導等はこのうちに含まない)。

東洋大学授業評価アンケート項目

●基本項目

1. 学部 2. 学年 3. 出席状況
4. あなたは、この授業の受講人数は適切だと思いますか。

A. 授業のわかりやすさについて

- A 1. 先生の説明は、あなたにとってわかりやすかったですか。
- A 2. 使用した教科書、参考書、配布資料などの教材は役に立ちましたか。
- A 3. 黒板の板書は読みやすく書かれていましたか。
- A 4. スクリーンに投影される文字や図表（パワーポイント、実物投影機、OHP 等を含む）は読みやすく作成されていましたか。
- A 5. 先生の声は聞き取りやすかったですか。
- A 6. 総合的に見て、この授業はわかりやすかったですか。

B. 授業運営について

- B 1. シラバス（講義要項）に則した内容の授業が行われていたと思いますか。
- B 2. 先生は私語を注意するなど、受講生が講義に集中できる環境を作っていたと思いますか。
- B 3. 授業の開始時間、終了時間は守られていたと思いますか。
- B 4. 総合的に見て、この授業の運営はどうでしたか。

C. 学習成果について

- C 1. あなたは講義中に熱心に受講したと思いますか。
- C 2. 受講の結果、新しい知識を得ることができましたか。
- C 3. 受講の結果、新しいものの見方や考え方を得ることができましたか。
- C 4. この授業へのあなた自身の取り組み、この授業から得られたことなど総合的に見て、あなた自身の自己評価はどうですか。

D. 授業の難易度と進度について

- D 1. 授業の難易度はあなたにとって適切でしたか。
- D 2. 授業の進み方のペースは、あなたにとって適切でしたか。
- D 3. 総合的に見て、授業の難易度と進度は適切でしたか。

E. 学部独自の追加項目（最大 8 項目まで）

F. 自由記述

平成 20 年に大学設置基準の改正が行われ、それに伴い学士課程教育での FD 活動が義務化されました。多くの大学では、FD 活動の一環として、学生による授業評価アンケートを実施しており、平成 23 年度は、93%の大学で実施されていることが報告されています（文部科学省 2012）。

本学では、平成 24 年度春学期に FD 推進委員会によるトライアル（39 科目）、秋学期には全学でのトライアル（10 学部 1,578 科目）で実施・検証を行い、平成 25 年度から、全学共通の授業評価アンケートが実施されるようになりました。多くの先生方にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本学の授業評価アンケートは、出力帳票のデザインも含めて、PDCA サイクルに則って授業改善ができるように部会の先生方と 3 年間かけて開発してまいりました。詳細は、各先生方に配付される「授業評価アンケート結果」の中に説明がありますので、そちらをご参照ください。

なお、本稿では、平成 25 年度春学期に実施した本学全体の授業評価アンケートの結果の中で、カテゴリーおよび各項目の大学全体の平均値から見た現状と今後の課題について、ご報告致します。

まず、図 1 は、大学全体のカテゴリー別平均値を示したグラフです。大学全体の傾向としては、カテゴリー B の「授業運営について」が最も高い評価を受けていたことがわかりました。その中でも特に良かった項目は何かを見るために、カテゴリー B における大学全体の各項目別平均値をグラフにしてみました（図 2）。図 2 から、項目 3 の授業の開始時間、終了時間が守られていた点が最も高い評価を受けており、次いで、シラバスに即した内容の授業が行われていた点が評価されていることが明らかになりました。

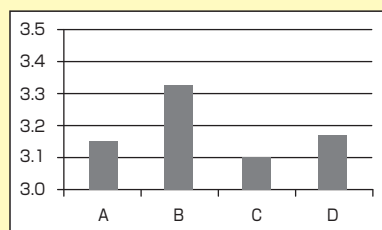


図 1 大学全体のカテゴリー別平均値

- A. 授業のわかりやすさについて
- B. 授業運営について
- C. 学習成果について
- D. 授業の難易度と進度について

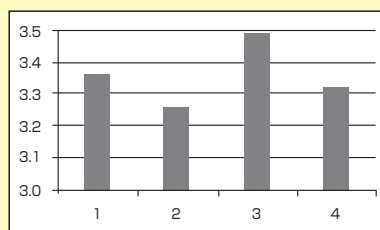


図 2 カテゴリー B における大学全体の各項目別平均値

1. シラバス（講義要項）に則した内容の授業が行われていたと思いますか。
2. 先生は私語を注意するなど、受講生が講義に集中できる環境を作っていたと思いますか。
3. 授業の開始時間、終了時間は守られていたと思いますか。
4. 総合的に見て、この授業の運営はどうでしたか。

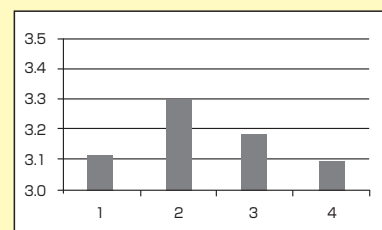


図 3 カテゴリー C における大学全体の各項目別平均値

1. あなたは講義中に熱心に受講したと思いますか。
2. 受講の結果、新しい知識を得ることができましたか。
3. 受講の結果、新しいものの見方や考え方を得ることができましたか。
4. この授業へのあなた自身の取り組み、この授業から得られたことなど総合的に見て、あなた自身の自己評価はどうですか。

平成 25 年度春学期授業評価アンケート・実施科目数一覧（※経済学部のみ独自に実施のため一覧より除く）

内 訳	実施予定科目数	実施科目	総履修者数	実施科目履修者数	有効回答者数	回答率
文学部	518	493	34,609	33,136	23,022	69.48%
経営学部	199	194	24,632	24,406	13,037	53.42%
法学部	147	144	15,442	15,036	8,752	58.21%
社会学部	273	250	26,805	24,926	15,993	64.16%
国際地域学部	163	160	12,619	12,445	8,875	71.31%
理工学部	312	310	24,422	24,304	17,607	72.44%
生命科学部	134	130	9,060	8,708	7,213	82.83%
ライフデザイン学部	218	214	14,970	14,686	10,713	72.95%
総合情報学部	95	92	8,891	8,741	6,095	69.73%
食環境科学部	59	59	4,232	4,232	3,597	85.00%
合計	2,118	2,046	175,682	170,620	114,904	67.34%

一方、最も改善を要するカテゴリーは、学習成果に関するカテゴリーCであることがわかりました。その中でも特に改善を要する項目は何かを見るために、カテゴリーCにおける大学全体の各項目別平均値をグラフにした結果（図3）、項目1の「あなたは講義中に熱心に受講したと思いますか」が低い評価であることが明らかになりました。このことから、学生が熱心に授業を受けるようになるための授業改善が大学全体の課題であると言えますので、今後もFD推進センターにおいて検討を行い、研修会などを通して情報発信をしていきたいと思ひます。あわせて、先生方に配付された結果については、アンケート結果に対する所見を所属学部へ提出して

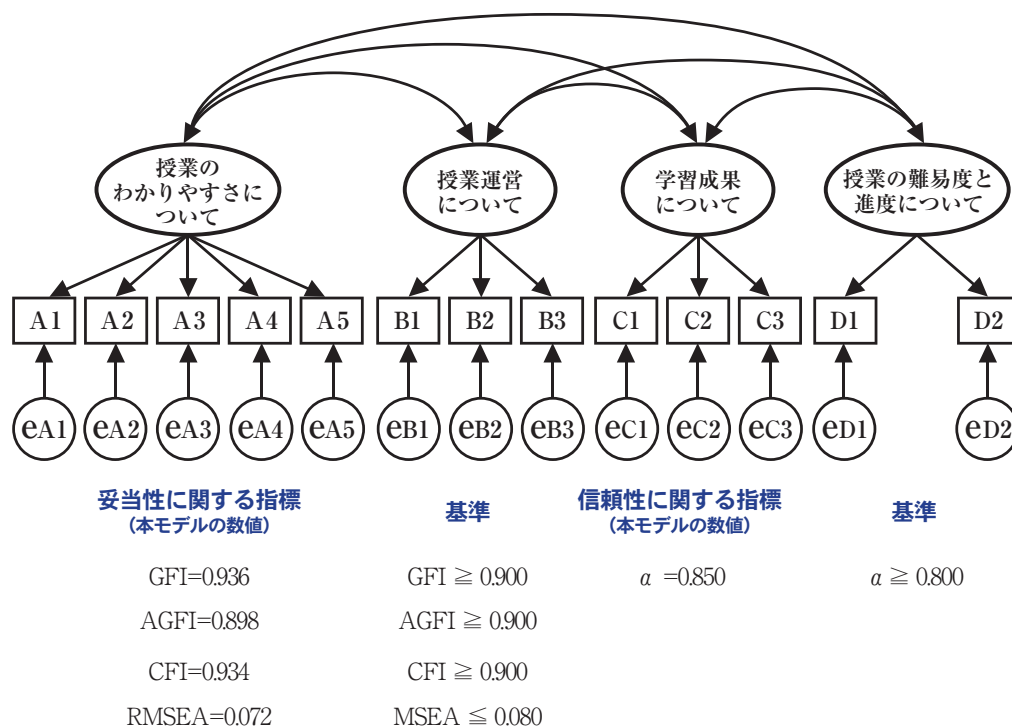
いただくことになっておりますので、各学部・学科においても、この授業評価アンケートを積極的に活用していただきたいと思ひます。

まだ新しい授業評価アンケートのシステムが導入されたばかりで、本システムが授業改善に有効であるか否かは、継続的に検証していく予定です。教職員の皆様方には、大変お手数をおかけ致しますが、今後とも、ご理解、ご協力を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

＜参考文献＞ 文部科学省（2012）：「大学における教育内容等の改革状況等について」 pp. 23-24

＜参考＞

本学の授業評価アンケートのモデルは、次のようになっています。



* A1～A5、B1～B3、C1～C3、D1、D2はアンケート項目の番号です。

* 紙面の都合上、詳細は割愛させていただきます。詳細は、動画配信にて説明をさせていただきますので、視聴をご希望の方は、FD推進支援室までご連絡ください。

平成 25 年度 教育改善シンポジウム ～授業評価アンケートの活用と本学授業支援システム (ToyoNet-ACE) の実践事例～

教育改善対策部会長 千明 誠 (経済学部 准教授)

開催日時：平成 25 年 9 月 28 日 (土) 14:00～16:40
(懇談会 16:50～17:30)

会 場：研修会…白山キャンパス 3 号館 3701 PC 教室
懇談会…白山キャンパス 8 号館 Tres Dining

対 象：本学教職員

Program

司会 千明 誠 (経済学部准教授)

1. 開催趣旨 神田 雄一 (FD 推進センター長・副学長)

2. 開催挨拶 竹村 牧男 (学長)

3. 講 演

「授業評価アンケート出力帳票の見方と分析」

長谷川 勝久 (文学部教授)

「経済学部授業評価システムの事例発表」

千明 誠 (経済学部准教授)

「やってトライ！出席&クリッカー&リフレクション」

藤原 喜仁 (本学情報システム課主任)

4. 総括・閉会挨拶

神田 雄一 (FD 推進センター長・副学長)



においても、それぞれの評価のレベルに関係なく、より改善すべき事項を提示する仕様になっていると述べられた。アンケート結果は、前年度との比較も可能であり、自らの改善点を把握することで、今後の授業改善の計画立案に役立てていただきたいとのことであった。質疑応答では、設問項目についての意見や学部全体のアンケート結果に対する要望などが寄せられた。

次に、千明誠准教授より経済学部の授業評価システムについて報告があった。経済学部は、2011 年度より記名式の授業評価アンケートを実施しており、これらに基づき、教員による改善レポートの提出、学科長会議による改善レポートのチェックの実施などを行うことで PDCA を確立させ、教育改善に取り組んでいる。さらに、アンケート結果のフィードバックとして、教員に対しては、個別結果の返却だけでなく、年度末に集計結果 (学科、学年、科目グループ) の報告会を開催、学生に対しては講義科目およびゼミの「学習ポートフォリオ」を提供することで授業の振り返りを可能にしている。この他にも、学部独自の FD 活動 (テーマ別会合、学生との意見交換会、教員総合評価システム等) が紹介された。また、本システムの GPA への活用や学習ポートフォリオによる学生の成長について、出席者から質問があった。

最後に、本学授業支援システム (ToyoNet-ACE) の実践として、情報システム課の藤原喜仁主任より、出席・クリッカー・リフレクションの機能について、実際に出席者が PC を使用し、実演を交えながら説明いただいた。ToyoNet-ACE の利用率は、学生・教員ともに増加しており、授業における活用も活発化しているとのことであった。実際にこれらの機能を体験することで、授業での活用方法をイメージすることが出来たのではないと思う。

参加者からも大変参考になったとの意見が寄せられたが、参加者数が少なかったため、テーマの設定および参加者増加対策については、今後の検討課題としたい。

授業評価アンケートおよび本学授業支援システムをテーマに、平成 25 年度教育改善シンポジウムを開催した。昨年度のトライアルを経て、今年度より、全学部共通フォーマットによる授業評価アンケートを実施したことに伴い、授業評価手法検討部会長である長谷川勝久教授より、出力帳票の見方とその活用方法について報告いただいた。

授業評価アンケートの作成にあたっては、授業評価手法検討部会において 2 年間にわたって検討を行い、全学部共通フォーマットを設定するとともに、学部独自の設問設定を可能としたフォーマットを作成した。また、本学の授業評価アンケートは、教員の授業改善を目的としたものであることから、高い評価を得た教員



平成 25 年度 学部 FD 活動状況報告会

教育改善対策部会長 千明 誠（経済学部 准教授）

開催日時：平成 25 年 12 月 21 日（土）13：30～16：00
（懇談会 16：00～17：00）

会 場：研修会…白山キャンパス 8 号館 125 記念ホール
懇談会…白山キャンパス 4 号館ステラ

Program

司会 千明 誠（経済学部准教授）

1. 開催挨拶 竹村 牧男（学長）

2. 報 告 会

＜学部からの報告＞・・・・・・・・・・・・・学部長

経済学部

法学部

国際地域学部

ライフデザイン学部

総合情報学部

3. 総括・閉会挨拶

神田 雄一（FD 推進センター長・副学長）

12 月 21 日（土）午後 1 時 30 分より、白山キャンパス 8 号館 7 階 125 記念ホールにおいて、「平成 25 年度 学部 FD 活動状況報告会－学部・学科における教育の質保証のための PDCA の取組事例－」が開催された。

竹村牧男学長の開会挨拶に続き、今年度は、経済・法・国際地域・ライフデザイン・総合情報の 5 学部のプレゼンテーションが行われた。

経済学部（小川芳樹学部長）からは、「学生とのコラボで目指すさらなる高み」として、学生との意見交換会（新規実施）、ToyoNet-ACE を利用した学生アンケート、学生ポートフォリオ（授業評価アンケート結果の学生に対するフィードバック）、「教員総合評価」（PDCA

の仕組み）、来年度からの第 3 期中期計画の課題等について報告があった。

法学部（櫻本正樹学部長）からは、学部 FD 活動の 2 つの柱である「教員の自己研鑽と相互構築」と「学生の意識喚起

と意欲向上」の点から、FD 学習会、教員カルテ、新入生歓迎行事、保護者との連携（14（とーよー）メール）、精神的な問題を抱える学生に対する対応の整備（法学部精神衛生委員会）について報告があった。

国際地域学部（藤井敏信学部長）からは、特徴的な活動として、e ポートフォリオの導入、保護者に対するフォローアップ（父母ガイダンス、父母参加の公開授業）について報告があった。今後は、「Think Global Act Local」をキーワードに、学生の海外研修や英語で教える専門科目の拡大などを通じて、国際化を一層推進していくと同時に、一部の取組みを全学に開放していく予定である。

ライフデザイン学部（白石弘巳学部長）からは、定期的に開催されている学生との意見交換会や卒業時アンケート・授業評価アンケートによって学生の意見を把握し、FD 講演会や実際の施策を通じて学生の要望に答えるという PDCA サイクルが報告された。その成果として、学修支援室の設置（2014 年 4 月開設予定）や「実践事業」を通じたアクティブ・ラーニングの実践を行っており、実践事業は社会貢献事業や授業科目への展開を目指している（過去に例あり）。また、アンケートの更なる活用も検討中である。

総合情報学部（杉本富利学部長）からは、昨年度に第 1 期の卒業生を輩出したことを踏まえて、学生の履修計画をサポートする科目系統図・履修モデルの作成やシラバスの見直し、1 年次から 4 年次までの就職支援体制の充実について報告があった。

最後に、神田雄一 FD 推進センター長の総括・閉会挨拶により報告会は終了した。他学部の取組みに対する具体的な質問が数多く出され、各学部の今後の展開にとって有意義な報告会であった。



開会挨拶（竹村牧男 学長）



報告会の様子

平成 25 年度 一般教員 FD 研修会

研修部会長 尾崎 晴男（総合情報学部 教授）

開催日時：平成 25 年 12 月 20 日（金）18:10 ～ 20:15

会 場：白山キャンパス 8 号館 125 記念ホール

対 象：本学教職員

本年度の一般教員 FD 研修会が、12 月 20 日（金）に白山キャンパス 125 記念ホールにおいて開催された。

まず、金子元久氏から「大学教育の転換－教育力を作るもの」と題して、ご講演をいただいた。金子氏は日米の大学で教育研究を進めるわが国の高等教育研究の第一人者であり、中央教育審議会委員、日本学術会議会員をご歴任されている。

講演はまず、大学教育の源流とこれを受けた日本の特質について説明があり、続いて「全国大学生調査」（以下、「調査」とする。）のデータを引用しながら進められた。なお、「調査」は 2007 年前後にかけて、全国 127 大学の学生と教員を対象としたアンケート等により実施されたものである。

金子氏が強く指摘されたのは、学生の学習量の不足、特に自律的な学習の時間が少ない実態である。1 日あたりの学習時間の平均は、授業・実験等の拘束的な学習が 2.9 時間、授業関連・卒論等の自律的な学習が 1.7 時間、合わせて 4.6 時間



研修会の様子



講演の様子（金子元久氏）

間となっている。試算の詳細は割愛するが、大学設置基準が想定する 1 日あたりの学習時間は 8 時間相当であるため、実態は「フルタイム」学生とは言い難い。

「学生たるものの当然として自主的に学ぶものだ」、「4 年

Program

司会 尾崎 晴男（総合情報学部 教授）

1. 開会挨拶

竹村 牧男（学長）

2. 講演

「大学教育の転換～教育力を作るもの～」

講師 金子 元久氏

（筑波大学教授、東京大学名誉教授）

3. 報告

「新入生アンケート分析結果について」

講師 劉 文君氏（IR 室 准教授）

4. 質疑応答

5. ディスカッション 「学生を成長させる教育とは」

6. 閉会挨拶

神田 雄一

（FD 推進センター長・副学長）

次の卒論などの小人数指導により補完している」との対論もあるだろうが、日頃の授業に立ち戻って考え直すべし、との問題提起である。

次に、学生の意識（モチベーション）の現状である。調査によると、「自己・社会認識度」と「大学教育への期待度」の 2 つの評価軸の高低で 4 タイプに分類した結果（図 1）、高い目標意識を持ち、かつ大学教育への期待が大きい高同調型の学生は、全体の 3 分の 1 程度に過ぎないということが判明した。多様な学生が存在する今日の大学において、どのようにして学生のモチベーションを高め、学習への契機を与えるかということが重要な課題となる。なぜなら、大学卒業後の社会（しごと）において、大学で学んだ専門知識・技能を直接活かすことが少ない現状にあって、これから求められるのは、基礎となる知識や考え方を着実に身につけること、および、それによって専門知識、汎用能力、自己認識を有機的に繋げることであり、これらを獲得するためには学生が自律的に学習、探求、経験することが必要不可欠な要素となるからである。

ではどうするか、金子氏はその糸口は授業にある、とする。金子氏は、「調査」から、学生が経験した授業の諸方法を 3 つに分類している。（図 2）1 つ目は「統制型」であり、出席重視、小テスト、レポート等を課すなどの学生を管理する授業方法で、9 割の学生が経験しており、広く普及して

図 1

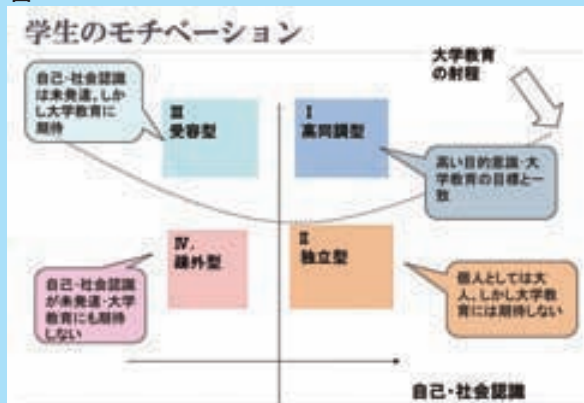


図 2

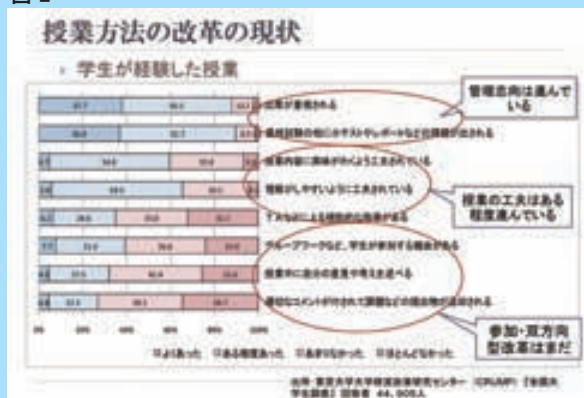
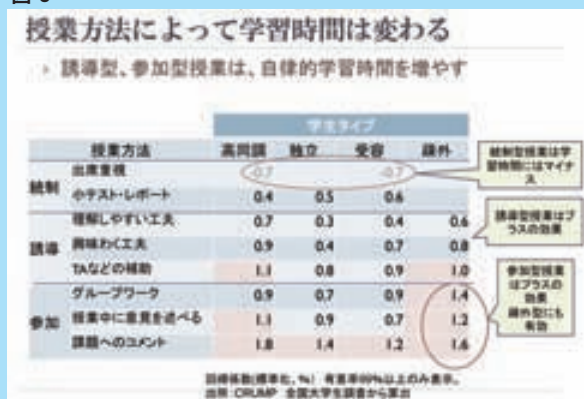


図 3



金子元久氏 講演資料より抜粋（3点）

いる。2つ目は「誘導型」であり、授業内容に興味をわくような工夫、理解しやすいように工夫されているなどの授業は、6割の学生が経験し、教員側の工夫も進みつつある。しかし、3つ目のグループワーク、授業中に意見を述べる、提出レポートのコメント付返却、といった「参加型」授業の経験は、3割程度にとどまる結果となっている。「誘導型」および「参加型」授業は、図1にある4タイプの学生のすべてにおいて、自発的学習時間が増えるというプラス効果があることが分かっており（図3）、今後、これらの授業方法を重視していくべきであろう。

なお、「参加型」授業は、教員・学生ともに、この授業形態に慣れないとその価値がわかりにくい、との説明もなされた。例と

して、授業中に自分の意見や考えを述べる「参加型」の手法は、実施や経験が多いほど教員も学生もその必要性を認識する一方、少ないほど不要と回答する傾向が見られるとのことであった。

以上のまとめとして、大学教育で転換すべき重要な課題として、「学生の自発的学習を作り出す」ことをベースに、学生の「専門知識」「汎用能力」「自己認識度」を対応付けながら向上させることが提起された。また、その方法に一般的な解はなく、大学と教員が自ら模索することの必要性和、学生の行動の客観的な把握と検討、そして授業における教員と学生との交互作用によって生み出されるとされた。さらに、大学独自の理念を共有することが重要であり、ここで東洋大学の教育理念である「哲学」は重要な軸となり、構築した理念のもとで各組織や各教員が教育に取り組むことが重要である、と締めくくられた。

続いては、今年度新設されたIR室の劉文君准教授による「新入生アンケート分析結果について」の報告である。設問群の回答結果の中から、授業外の1日あたりの学習時間、受験した入試方式、所属学部等のクロス集計による分析結果を報告された。

金子氏の講演に関連した学習時間について記すと、アンケートを実施した5月時点での新入生の自己評価では、授業外の学習時間は多いとは言えないこと、入試方式や学部によって多様性が幅広く見られることなど、興味深い結果が報告された。

報告内容の詳細は、当日の資料を参照願いたい。今後ともIR室には、FDを含め全学・学部学科の教育改善につながる研究を先導的に進めていくことを期待するところである。

最後にまとめとして、金子氏、劉准教授、聴講者と共に、「学生を成長させる教育とは」をテーマにディスカッションを行った。学習成果としてのラーニング・アウトカムの基準や評価方法、学習の質につながる学習時間の確保の重要性、海外留学が学生にもたらす学習効果、初年次教育とともに全学年の教育が重要であることなど、さまざまな質問や意見が交わされ、時間の制約はあったが内容の充実した研修会とすることができた。



新入生アンケート分析結果の報告（劉准教授）

各学部・研究科におけるFD活動

経済学部におけるFD活動～学生との意見交換会～

千明 誠（経済学部 准教授）

経済学部では、11月7日（木）18:10～19:40に2号館16階スカイホールにおいて、第1回「学生との意見交換会」を開催した。教員からは学部長・学科長・FD推進委員が参加し、学生からは1年生から4年生15名（経済学科4名、国際経済学科8名、総合政策学科3名）が参加した。

今回の取組みは、これまでの他大学視察の成果として、昨年度の検討結果に基づき他大学の取組みを学部FD活動に取り入れるために実施されることが決まった。また、学生との意見交換会は既にライフデザイン学部で定期的に行われており、こちらも参考にさせていただいた。

学部長の挨拶、FD推進委員長の趣旨説明に続き、まず各学科に分かれて学生と教員との意見交換が行われた。

経済学科では、出席調査、授業外学習（充実を要望）、カリキュラム（履修単位制限など）、個別科目の良い点（演習科目）及び改善を希望する点（私語の注意など）などが話題となった。

国際経済学科では、学科で学ぶことができたこと（各国事情、英語での授業など）、学科のイメージと現実とのギャップ（語学の種類、留学生との交流など）、改善を希望する点（科目間関連

性の明示など）などが話題となった。

総合政策学科では、良い点（問題解決能力、ゼミ充実など）、改善を希望する点（履修モデル提示、基礎ゼミ運営など）などが話題となった。最後に、学科別議論を全体で共有するために、各学科から簡単な報告が行われた。

意見交換会における議論の内容とアンケート結果は各学科教員全員に報告され、参加学生に対してもフィードバックされる。初回ということもあり運営面でいくつかの課題が残ったが、参加者に対するアンケート結果は、企画内容、参加について回答者全員が肯定的であった。また、今回は全学の「学生FDスタッフ」の方々にもお手伝いいただいた。経済学部では、こうした「学生とのコラボ」による取組みを通じて、FD活動の一層の充実と着実な成果（教育改善）の実現を目指していきたい。

社会学部FD研修会「初年次教育に関する情報共有」

片山 美由紀（社会学部 教授）

10月14日教授会終了後17時より、学部FD研修会が開催された。

■背景：社会学部は第1部5学科と第2部2学科から構成され、教育を含め多くの事柄を学科単位で話し合う。教員七十数名の主要所属学会は異なり、皆が集えるような部屋も学内に無い。つまり日常的な業務ルーティン中には相互対話の場は多くない。他方、各学科がその枠を超え情報共有する重要性はいうまでもなく、今年度はプログラムの充実や体系化が全国の大学で必要とされている「初年次教育」の研修会を行った。

■運営：7月上旬に各学科に準備依頼、当日は各学科教員が説明を行った（西澤／小林修一／小林良二／戸田／大島／秋元／藤林教授）。念入りに準備されたパワーポイントと配布資料が短時間で効率的な情報交換に活躍した。

■成果と課題：研修会後、教授会メンバーにアンケート実施（成果の数値化、参加しやすい開催形態の提案や成果や課題等の自由記述等）。成果例：「他学科の取り組み、その背後にある考え方がわかった」「他学科の取り組みの具体例や、基本的ポリ

シーについて理解することができた。本学科の今後の取り組みにも参考になった」「第2部を含め全学科の取り組みが聞けて、対応の多様性を学べた」「第2部の授業運営の仕方についてはこれまで情報交換がなされる機会がなかなかなかったのが、貴重な学びの場となった」等。成果は喜ばしい一方、従来の各学科間の情報共有の乏しさも改めて認識される。参考迄に研修会参加で得られた成果として、「大いにある」21.9%、「ある」43.8%、「少しある」31.3%、「ない」3.1%との結果であり、研修会の内容に課題も見受けられる。資料とアンケート結果は全自由記述も含め教員（12月教授会）と共に学部教務課全職員（教務課一斉メール）において共有することとした。

今年度以降もFD活動に特に積極的な教員や一部の教員のみならず「より多くの教員」と「より多くの教務課職員」が「気軽に参加」できるような「交流の場」を設定する工夫が必要と考えられる。

国際地域学部 FD 講演会「グローバル化の進展と英語イマージョン教育ー加藤学園の事例からー」

子島 進 (国際地域学部 教授)

11月28日(木)午後1時より、白山キャンパス8号館において、国際地域学部FD委員会は、Teaching in English FD (略称 TIE)を開催しました。TIEでは、学部の教員が交替で英語による専門科目のミニ講義を行い、講義方法の向上のための議論を行っています。そのかわり、年に2人ほど外部から講師をお招きし、最新の情報の収集にも力を注いでいます。

今回は、学校法人加藤学園暁秀高等学校・中学校(静岡県沼津市)のマイク・ポストウィック博士をお招きしました。暁秀高等学校・中学校は、英語イマージョン教育において高い評価を受けており、日本の英語教育研究者の論文でも頻繁に引用されています。また、国際バカロレア(IB)機構加盟認可校として知られています。

FD委員会がポストウィック博士を招へいするのは、昨年に引き続き2回目となります。今回は、1) グローバル化の進展、2) IBの主要な概念、3) 加藤学園における英語イマージョン教育の実状、以上3点について詳しくお話しいただきました。2012年に『グローバル人材育成推進事業 Type B』に採択された国際地域学部では、海外での体験学習と並んで、現場で使える英語力のアップに多くの教育努力を傾けています。2年目にして成果が生み出さ

れる一方、いくつかの課題も浮き彫りになってきました。現在進行形の英語による専門科目講義のあり方、

そして将来的なカリキュラム編成を考えるうえでも、ポストウィック博士の講演からは大きな刺激と示唆を得ることができました。

今回のFDには、国際地域学部のみならず、他学部の教職員で英語教育に関心をお持ちの方にも出席していただきました。講演後、参加者からは数多くの質問が飛び出し、全学レベルにおける英語イマージョンに関する関心の高さを知ることとなりました。

来年度以降も、国際地域学部FD委員会は、外部講師を招へいしてのTIEを続けていく予定です。



ライフデザイン学部「学生との意見交換会」

石井 隆憲 (ライフデザイン学部 教授)

ライフデザイン学部では、第8回目となる「学生との意見交換会」を2013年10月23日に朝霞キャンパスの第2会議室において開催した。

例年、この会には3、4年生が多数出席し、授業や施設などについて、実にさまざまな意見や要望が寄せられてきた。しかし、今回は若干趣向を変え、1、2年生を中心に参加者を募った。この日の出席者は21名であり、12時15分から約1時間にわたって意見交換がおこなわれた。

今回の意見交換会では、「授業の内容に関するもの」、「資格取得に関わるもの」、「施設に関する要望」など多岐にわたって意見が出されたが、これまでと極めて異なる点は、授業の内容に関わる具体的な要望が出されたことである。ここでは次の2つの意見を紹介したい。

一つ目は資格取得と関連している授業科目の内容が、国家試験の内容と大きく乖離していることから、適正な指導のできる授業担当者に交代してもらう等の措置を講じてほしいという要望であった。

二つ目は大学側が学生の英語能力を高めるためにTOEICでクラス分けをしているが、グレードの高いクラスになればなるほど英語の授業の予習と復習に時間が取られ、グレードの低いクラスとの間で、学生の授業負担に格差が見られる。またグレードの高いクラスに入ってしまうと、本来勉強しなければならない専門科目にまで手が回らなくなるという主客転倒の状態が起こってしまうという意見が出された。

これらは学生目線からの意見であり、特に大学側が推進する英語教育のあり方については、学生たちも一定の理解を示しているが、いざ授業面での負担が大きくなると必ずしも好意的に受けとめられなくなっており、別の意味で授業内容についての検討の必要性が浮き彫りとなった。

ライフデザイン学部では今後もこうした学生と教職員の対話を通じて、よりよい教育環境を作り上げていくことを目指していきたいと考えている。

「2013年度学生FDスタッフ活動報告」

東洋大学学生 FD スタッフ 大森 優也（文学部教育学科 2 年）
小越 凌（社会学部社会心理学科 2 年）

2013 年 8 月、立命館大学にて開催された「学生 FD サミット」への参加を終え、2013 年度の本学の学生 FD 活動は本格的にスタートした。本学の 4 年間にわたる学生 FD 活動を通して培われた学内・大学間のつながり、また 2014 年 3 月に本学で開催される学生 FD サミットの実行委員のつながりを最大限に活用し、「東洋大生がより主体的に学び行動し、東洋大生であることに誇りを持てる大学をめざす」ということを理念に活動している。2013 年度は新たなスタッフが 9 人参加し、よりよい大学、よりよい学びとは何かを考え、取り組みを進めてきた。

10 月には、教職員と学生と一緒に大学教育について話す「しゃべり場」を開催した。「大学って楽しい？おもしろい授業ってなんだろう？」というテーマのもと、学生の授業に対する率直な声と、教員の生の声が共有された。こういった企画を通して、学生がより意欲的に学ぶことにつながることを期待したい。また、学生・教員・職員の授業への声を集め、授業向上に活かそうと「第 1 回東洋授業への声コンクール」を実施した。このコンクールでは学生 FD スタッフと教員が合同で選考を行い、東洋大学にお



学生 FD プレサミットの様子

ける授業への建設的な提言や、授業に対する学生らしい感性があふれる作品が集まった。12 月 14 日には受賞者への表彰式と学生 FD スタッフ、教職員も交えての座

談会も行われ、大学で学ぶことはどうということかなど、真摯な議論が行われた。

また、同日に、学生 FD サミット 2014 春プレ企画として、「大学再考大作戦！ Re:START ～大学を変えるチャンスはここにある～」を開催した。他大学からも約 60 名の学生および教職員の参加があり、午前にはパネルディスカッション、午後は学生・教職員合同しゃべり場として、創作グループとディベートグループに分かれて話し合い、最後に成果報告会を行った。各会とも活発な議論が交わされ、今後、学生 FD 活動を行っていく上で、大いに参考になったことと思う。



第一回東洋授業への声コンクール表彰式

この他にも学生 FD スタッフは、新任教員 FD 研修会において「学生が考えるよい授業とは」というテーマで発表を行い、経済学部 FD 委員会主催の意見交換会への参加、横浜国立大学学生 FD グループ・教職員と学生 FD 活動についての合同意見交換会実施、ニュースレターの発行などの活動を行った。これらの活動はすべて教職員の方々の深い御理解および御協力と、学生 FD スタッフの「もっと大学の学びをよりよくしたい」という思いに支えられている。

今後も学生 FD 活動の活性化のため、力を合わせて教職員の方々と協力しながら活動を進めていきたい。

図書館の取組「東洋大学白山図書館 presents “English Tips” at ラーニングフォレスト」

岡田 朋子（図書館事務部図書事務課）

文部科学省からも学内でも今日、学生の主体的な学修（アクティブ・ラーニング）への転換と、図書館の役割を問われるなかで、本学図書館独自の取組として「“English Tips” at ラーニングフォレスト」を企画・実施しました。この企画は、2013 年 4 月にラーニング・コモンズが白山図書館に設置されたことにより可能となりました。

まず、第一弾として、「“English Tips = 英語を学ぶヒント”を開きに、図書館に来ませんか？」をテーマに全 4 回実施。各回は、第 1 回 Tips about “TOEIC Listening”、第 2 回 Tips about “Graded Readers”、第 3 回 Tips about “Lonely Planet”、第 4 回 Tips about “Homestay”。開催時間は昼休みの 20 分間で、オープンスペースなので予約不要とし、学生が気軽に参加できるようにしました。

内容は、図書館スタッフによる英語力アップに役立つ



情報提供と英語を自主学習するために使える図書館資料の紹介、さらに交換留学生とテーマに沿った話題について話そう、というものです。



今回の実施にあたっては、通常からの図書館資料の充実（収書・選書）が鍵でした。図書館はグローバル時代に必要国際社会人育成としての語学力強化をはかる収書・選書方針をとっているため、この企画の所蔵資料紹介は充実した内容となり、資料を効果的に学生の能動的な学修に結びつける良い機会となりました。

図書館は、引き続きアクティブラーニングや基礎学力向上支援となるような、新たな企画を発信して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

☆ English Tips 報告書は、FD ホームページに後日掲載予定です。
ぜひご覧ください。

「学生 FD サミット 2014 春」開催報告

平成 26 年 3 月 8 日（土）・9 日（日）に、東洋大学白山キャンパスにおいて、「学生 FD サミット 2014 春（全体テーマ：あなたがつくる、大学最高大作戦～めざせ意識改革～）」が開催されました。北は北海道、南は九州まで、学生・教職員・外部の方をあわせて約 75 団体、参加延べ人数は約 620 名と、たくさんの方の参加をいただきました。

当日は、テーマ別しゃべり場やグループワークなど、さまざまな企画が行われ、参加者の皆さんの FD に対する熱意や、大学をより良いものにしていこうという強い思いに触れることができ、充実した 2 日間となりました。

この一大イベントの実施にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、今後もさらなる FD 活動の発展に向けた取組を行っていききたいと思います。なお、詳細は FD ニュース第 14 号にて報告いたします。



1 日目オープニング (3/8)



学生 FD サミット 2014 春実行委員会メンバー

他大学との交流「関東圏 FD 連絡会」および包括協定の締結について

第 13 回「関東圏 FD 連絡会」

日 時：平成 25 年 10 月 8 日（火）
15：30～17：30
場 所：立教大学 池袋キャンパス
12 号館第 3 会議室
参加者：青山学院大学、法政大学、立教大学、
東洋大学の FD 担当教職員 計 18 名
概 要：①各大学からの FD 活動状況報告
②学内 FD 活動の活性化について
③関東圏 FD 連絡会に関する
包括協定（案）について

第 14 回「関東圏 FD 連絡会」

日 時：平成 26 年 1 月 28 日（火）
15：30～17：00
場 所：青山学院大学
青山キャンパス
15 号館 5 階 第 13 会議室
参加者：青山学院大学、法政大学、立教大学、
東洋大学の FD 担当教職員 計 17 名
概 要：①各大学からの近況報告
②教員表彰制度の実施について

関東圏 FD 連絡会は、平成 25 年 10 月に青山学院大学、法政大学、立教大学の 4 校による包括協定を締結しました。これは、平成 21 年度より定期的に意見交換会を開催してきた実績にもとづき、今後も各大学の特色を生かしつつ、FD 活動および教育・研究の質的向上等に資するため、相互の連携を図ることを目的としたものです。今後も各大学との交流を深めるとともに、東洋大学の FD 活動の改善・発展に取り組んで参ります。

全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF) 会員校ミーティング参加報告

2013 年度 会員校ミーティング

日 時：平成 25 年 12 月 23 日（月）14：00～17：15
場 所：立命館大学 東京キャンパス 教室 2
概 要：①会員校ミーティング
②懇談会企画
テーマ A 「授業評価アンケートは本当に必要か」
テーマ B 「アクティブ・ラーニングを用いた正課及び正課外授業支援の在り方」
テーマ C 「学生発案型授業の必要性を問う」

平成 25 年 9 月より全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF) に加盟したことに伴い、会員校ミーティングに参加いたしました。今回、新規入会校として、本学が紹介され、神田センター長が挨拶いたしました。その後、テーマごとにグループに分かれて、ディスカッションが行われ、活発な議論が展開されました。

本学における学修支援室の整備について

本学では、現在、白山キャンパスおよび朝霞キャンパスにおいて、学修支援室の設置の準備を進めています。

既に川越キャンパスは平成 16 年度、板倉キャンパスは平成 21 年度より学習支援室が設置され、アドバイザーや TA による基礎科目や授業の復習等を中心とした学習支援を行い、実績を重ねてきました。また、各学部においても、独自に学習支援を進めているところです。

しかし、卒業時アンケートや新入生アンケートにおいて、充実してほしい学習支援として、レポート・論文の書き方や英語・数学などの補習教育に対する要望が依然として多く寄せられており、本学としても全キャンパスの学習支援体制の整備は喫緊の課題であるとの観点から、平成 24 年 10 月より、学部長懇談会等で検討を重ねて参りました。

今回の設置については、白山キャンパスは 3 号館 1 階のナレッジスクエアを全面改修、朝霞キャンパスは図書館内にスペースを設けることを予定しています。特に白山キャンパスについては、文・経済・経営・法・社会・国際地域学部の学生が在籍することから、6 学部に共通した学習支援を想定し、学修支援アドバイザーや TA による支援・相談を行う予定です。

今回の設置に伴い、本学の全キャンパスにおいて学修支援室が整備されることになり、学生の基礎学力向上および自学・自習の習慣付けをより一層促進していきたいと考えています。あわせて、引き続き、大学全体として図書館やその他学内の学習スペースの整備および ICT による学習支援システムの推進を図り、学生が充実した大学生活を送ることができるよう、サポートしていきます。

平成25年度東洋大学FD推進センター活動報告 (平成25年9月～平成26年2月)

FD推進委員会

◆第4回

●日 時：平成25年9月28日(土) 10:00～12:00

報告1 各部会活動状況報告

報告2 センター長報告

- ① TOEIC 指導者向けワークショップの実施報告
- ② 全国私立大学 FD 連携フォーラムへの加盟について
- ③ 東洋大学学生 FD スタッフの活動について(学生 FD サミット2013 夏)
- ④ 東洋大学 FD 推進センター活動報告書(平成23-24年度)刊行について

審議1 一般教員 FD 研修会の開催について

審議2 学部 FD 活動状況報告会の開催について

協議1 東洋大学学生 FD スタッフとの連携について

協議2 教学検討委員会答申への対応について

◆第5回

●日 時：平成26年1月31日(金) 14:30～16:45

報告1 各部会活動状況報告

報告2 センター長報告

- ① 学部 FD 活動状況報告会について
- ② 第1回部会長会議報告
- ③ 平成25年度関東圏 FD 連絡会(第13回)(第14回)報告
- ④ 学生 FD プレサミット開催報告
- ⑤ 全国私立大学連携フォーラム参加報告

審議1 授業評価アンケート情報公開・データ活用について

協議1 東洋大学学生 FD スタッフとの連携について

協議2 学生 FD サミット2014 春の開催について

協議3 平成25年度 FD 推進センター FD 推進委員会の活動と振り返りと課題の抽出

協議4 白山キャンパス学修支援室の設置について

部会長会議

◆第1回

●日 時：平成26年1月24日(金) 10:00～11:45

議題1 各部会の活動状況報告

議題2 白山キャンパス学修支援室について

議題3 学生 FD スタッフの位置づけについて

議題4 TA ハンドブック製作について

議題5 平成26年度 FD 推進センター活動計画について

議題6 クォーター制の検討について

研修部会

◆第1回(メール会議)

●日 時：平成25年11月8日(金)～11月13日(水)

議題1 平成25年度 一般教員 FD 研修会について

大学院部会

◆第1回

●日 時：平成25年6月22日(土) 10:00～10:50

議題1 大学院の FD 概念の構築について

議題2 FD の実施内容の検討および実施計画の立案について

議題3 大学院各研究科の FD 活動状況報告会の立案、実施について

議題4 教員養成プログラムの検討について

議題5 その他

◆第2回(メール会議)

●日 時：平成25年10月14日(月)～平成25年10月31日(木)

議題1 教員養成プログラムの検討について

授業評価手法検討部会

◆第2回

●日 時：平成25年12月21日(土) 11:00～12:00

議題1 全学授業評価アンケートの情報管理について

◆第3回(メール会議)

●日 時：平成26年1月27日(月)～1月30日(木)

議題1 全学授業評価アンケートの情報管理について

編集部会

◆第2回(メール会議)

●日 時：平成25年12月18日(水)～平成25年12月24日(火)

議題1 FD ニュース第13号コンテンツ(案)について

学内公開活動

平成25年度 教育改善 シンポジウム

- 開催日時：平成25年9月28日(土) 14:00～16:40
- 会 場：白山キャンパス3号館3701PC 教室
- 参加対象：教職員 ●参加人数：約30名

平成25年度 一般教員FD研修会

- 開催日時：平成25年12月20日(金) 18:10～20:15
- 会 場：白山キャンパス8号館125 記念ホール
- 参加対象：教職員 ●参加人数：約60名

平成25年度 学部FD活動状況 報告会

- 開催日時：平成25年12月21日(土) 13:30～16:00
- 会 場：白山キャンパス8号館125 記念ホール
- 参加対象：教職員 ●参加人数：約50名